

こんにちは！名寄市地域包括支援センターです！

今回は、土別市立病院診療放射線技師の宮本直武さんから、心不全とレントゲン画像についてお話しいたします。

第7号まで来ました、心不全シリーズ！今回は今までのお話しとは違って見慣れない・聞きなれない分野の話となる事でしょう。° (°>0<°) °

でも安心して下さい！最後には『ふう〜ん』 っと思えるようにします。(@〜@)ノ※



土別市立病院
 みやもと 直武 診療放射線技師

早速ですが皆さん、昔『手影絵（てかげえ）』遊びをしませんでしたか？！手などを懐中電灯で壁に映し、シルエットで物の形や芸を楽しむ遊び、誰もが1度はやってみたのではないのでしょうか？！実はこの手影絵とレントゲン（X線）撮影は、右図のように非常によく似ているのです(=°ω°)！見た目だけでは想像できなかった被写体(もの)が、映し出す機械により、手影絵では兎の影が、レントゲンで身体の中身の影が映し出されます。いかがでしょう。少しは身近なものに感じて頂けたのではないのでしょうか。

	手影絵	レントゲン写真
映すもの	手	身体など
映す機械	懐中電灯	X線機器
出来上がり	輪郭の中が【黒一色】	【白〜黒】を256階調
イメージ図		



さてここからが本題の心不全ですね！心不全とはさまざまな要因（高血圧や不整脈など）により心臓がうまく機能しなくなることです。さて、そうなるとうどうなるのかを【レントゲン写真】を見ていただこうと思います！



左が人体の解剖イラスト、中央が正常なレントゲン写真、右が心不全中のレントゲン写真です。この写真は同一人物なんです！このときの症状は、「息は苦しく横に寝ようとしても胸が苦しく、昔海で溺れたのを思い出したよ」と言うておりました。そうです、まさしくこのレントゲン写真では、心臓はパンパンに膨れてしまい肺は水（点線で囲んだ部分）で溺れちゃっている状態なんです。もちろん、すべての心不全がこのような写真になるわけではありませんが、イメージはつけたのではないのでしょうか。こういった心不全状態に陥ってしまうと、その度に心臓や身体に負担がかかり、全身の機能も低下していきます。しかし、病院に受診すれば、何事もなかったかのように改善する方も多い事でしょう。実は、心不全の怖いところは改善・悪化を繰り返すことにあります。そうならないためにぜひ、この心不全シリーズ《医師・看護師・栄養士・理学療法士・薬剤師などからの連載》を見返して下さい！必ず自分、そして家族や友人の助けになると思います！今回は皆さまにレントゲン写真を見ていただきましたが、機会があればその先に進んだ放射線診療画像をお見せしたいですね(๑>ω<)๑♡

追伸) 2011年3月11日に発生した福島第一原発の爆発事故をきっかけに“ひばく”という言葉に改めて注目されてきました。医療で使用される放射線は“被曝”“被ばく”両方の言葉が使用されており、原発や核爆弾などの“被爆”とは分けられております。医療機関で受ける“被ばく”は施設ごとに管理されており、受診者の方々に安心して検査を行っていただけるよう努めておりますので安心して下さい！

私たち医療介護連携チームは、心不全になってしまった患者さんにはその苦しさを繰り返さないように、元気な方には心不全にならないように、さまざまな職種のエキスパートが皆さんと共に目指しています。放射線について詳しく知りたい方は、診療放射線技師にご相談ください。共に心を通わせ、『心不全パンデミック』を脱し『心健康パラダイス』計画を実現しましょう！今回は、名寄市立総合病院 豊嶋医師のお話しです。

◆問い合わせ
 地域包括支援センター地域包括支援係（名寄庁舎2階）
 ☎01654③2111（内線3260）